

## 世界遺産を活用した蘇りの地域づくり～熊野健康村構想～

特定非営利組織 熊野本宮 代表 泉 正徳 まさのり

### 1. 地域づくり方針・目的

- ・世界遺産“熊野”の保全と活用  
「熊野」アイデンティティーの確立 → “蘇りの聖地・熊野”
- ・世界遺産を活用し癒しや健康を通じた交流産業の創造
- ・持続可能な田舎型の経済システムを構築  
地域資源の活用、担い手としての住民、収入と生きがい

### 2. 取り組み内容

- ・熊野本宮を拠点とする「熊野健康村構想」の推進（産学官民連携）  
熊野古道の「癒し・健康効果」の科学的検証（県・国土交通省・厚生労働省）  
熊野古道を中核資源とした癒しと健康の滞在メニューの開発、試行
- ・語り部の育成、蘇りの地にふさわしいスキルアップ研修（熊野本宮語り部の会）
- ・グリーンツーリズムなどスローライフ志向への対応（日本宮町）  
林業体験ツアー、伏拝地区による「じげのまちづくり」

### 3. 苦労点・達成度等

- ・世界遺産登録後「通過型マストツアー」増加による地域への影響  
～見る遺産から感じる遺産へ～観光事業者への理解と協力要請、徐々に浸透
- ・市町村合併によるコミュニティの変化
- ・過疎化・高齢化による人材不足

### 4. 効果・反響等

- ・メディアによる取材の増加  
健康、環境をテーマに切り口での取材が増え情報チャンネルが拡大
- ・民間事業者の新規参入（癒し・健康関連事業者）
- ・地元観光関連事業者の意識改革 → マスに流されない“蘇り”のベクトル
- ・地元住民の古道への関心度向上

### 5 今後の課題・展開等

- ・点在する地域コンテンツ（資源、人）をコーディネートする人材の不足
- ・IT化への対応の遅れ、情報発信力の潜在的低下
- ・収益活動から保全活動へ還元するしくみづくり



#### ビジネスプラットフォームの構築

着地型エージェント、スローライフのサポーターとしての機能  
コンテンツのデータベース化と活用  
ITを駆使した情報収集・発信、顧客管理  
企画・マネジメント能力のある人材発掘、育成  
高齢者、Iターン者などの活躍の場の提供

#### 熊野の精神文化に根ざした“蘇り”体感

修験、心理学的療法など科学、非科学の融合した滞在プログラムの提案

～住民みんなが参画し“千年未来へ引き継ぐ”持続可能な地域づくりを目指して～

# 世界遺産を活用した蘇りの地域づくり ～熊野健康村構想～

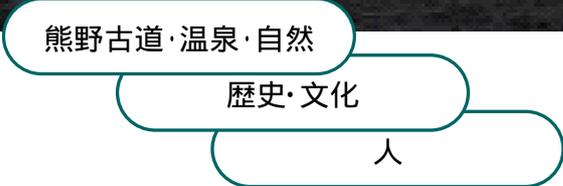
2004.7 「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録

- ・古より受け継がれた精神文化を源流とし、人と自然が営んできた文化的景観が評価された。
- ・熊野への祈りの道「熊野古道」は、世界で2番目に道として世界遺産登録された中心的資源
- ・古より心身再生を願う人々が熊野を目指し、その様は「蟻の熊野詣で」とたとえられる。

特定非営利組織 熊野本宮 代表 泉 正徳



## 蘇りの聖地・熊野



## 癒しの文化と地域資源



熊野の魅力

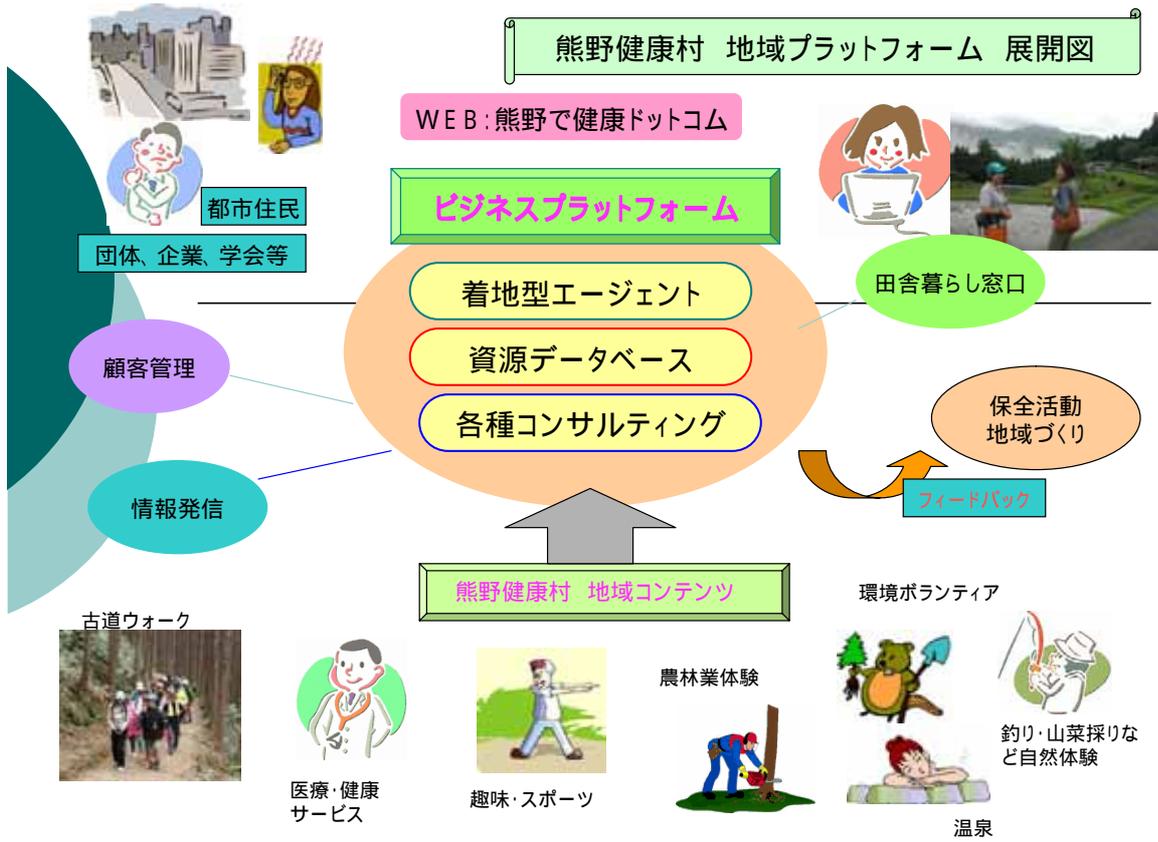
癒し

祈り

神秘







## 精霊の宿る山

日本の精神文化を感じる空間



